

20m05HO提出課題例

小テスト20m05解答例

- 1 江戸時代の庶民教育の機関であった寺子屋での 主たる学習内容を3つ挙げよ。 最後に、このテーマについて、自分の意見を述べよ。

読むこと

書くこと

計算すること

- 2 次の空欄を埋めよ。

学力と集団と発達の保障とは、

学力の「a 格差 」や「病める学力」に取り組む中で、本物の学力を全ての子供たちに身につけさせること。

暴力や「b いじめ 」、不登校に現れる子どもたちの「c 心と生活 」をめぐる問題状況に直面して、

豊かな集団による「d 自己肯定感 」や自治能力の形成をめざすこと。

「e 障害児教育 」から提起された発達保障に取り組むこと

最後に、このテーマについて、自分の意見を述べよ。

- 3 形式陶冶と実質陶冶について簡潔に述べよ。

最後に、このテーマについて、自分の意見を述べよ。

形式陶冶：記憶や推理、想像といった一般的な形式的能力を高めようとする立場

実質陶冶：それぞれの領域ごとに知識や技能を獲得させようとする立場

- 4 大正新教育運動について簡潔に述べよ。

最後に、このテーマについて、自分の意見を述べよ。

明治末から大正期を通じて展開された教育改革の論理的ならびに実践的な運動で、

国のことを考える教育から子ども達のことを考える教育に変化していった。

- 5 第4回目までに取り上げられたICT活用教育について、

取り組んでみたいと思った内容の概要と、その理由について述べよ。

最後に、このテーマについて、自分の意見を述べよ。

第二回目の空間図形の範囲の時にプロジェクターに図形を写すのはわかりやすくいいと思った

教材づくりの発想

教育方法論 m 第 回

テーマ「教材作りの発想」 班 1

(1) テキストから

- ・学びからの逃走が進行
 - ①座学中心で、活動が少ない
 - ②知識や技能の有用性が自覚しにくい
 - ③学習の動機づけが弱い
 - ④達成感や上達観が得られにくい

以上の問題などがあり、学びからの逃走という事態が進行してしまっている。

以上の問題に加えてこれまで教材観が大きな問題になっており、教材＝教科書という概念が存在していたのでオリジナルの教材を持ち込んで授業を行うことが容易ではなかった。教科書は最も基本的な教材なのでその内容をきちんと教えることは極めて大切であるが、教師が学習者の実態に合わせて独自の新しい教材を作るという発想も極めて重要である。

・教材作りの方法

教科の別を問わず、教材作りの方法を考えるとき藤岡氏の「上からの道」・「下からの道」という概念を参考にすべきである。

→上からの道：教材内容から教材へと降下する道であり、個々の科学的概念や法則、知識を分析して、それに関連してひきよせられる様々な事実、現象のなかから子どもの興味や関心をひきつけるような素材を選び出し、構成していくというオーソドックスな方法である。

→下からの道：教材から教科内容へと進む道であり、日常生活のなかで子どもの興味や関心をひきそうな事実に出会ったとき、その素材がどんな教科内容と対応しうるかという価値が見いだされるという過程をとる。

- ・上からの道＝教科内容の教材化
- ・下からの道＝素材の教材化

(2) その他のネット資料から長所・短所

・上からの道と下からの道の差異

上からの教材と下からの教材の差異はカリキュラム内容に体系性にある。上からの道は、組織的・系統的方法であるのに対し、下からの道は非組織的方法である。つまり、カリキュラム内容の体系性を保ったまま、児童・生徒の興味・関心を喚起するような素材を後から付加することでつくられるのが上からの教材であり、児童・生徒の興味・関心を喚起する素材を後から付加することで作られる、結果的に体系性が相対的に低くなるのが下からの教材である。

→どちらも児童・生徒の興味・関心を喚起するような素材を教材に取り入れるとされている。

(3) 自分の意見

ネットからの資料やテキストにも教材づくりのメリット・デメリットは記載されていることが確認できなかったが、上記のように資料をまとめた結果、次のようなものがメリット、デメリットになると考えた。

・教材作りメリット

→児童・生徒の興味・関心を喚起するような素材を後から付加することができる。

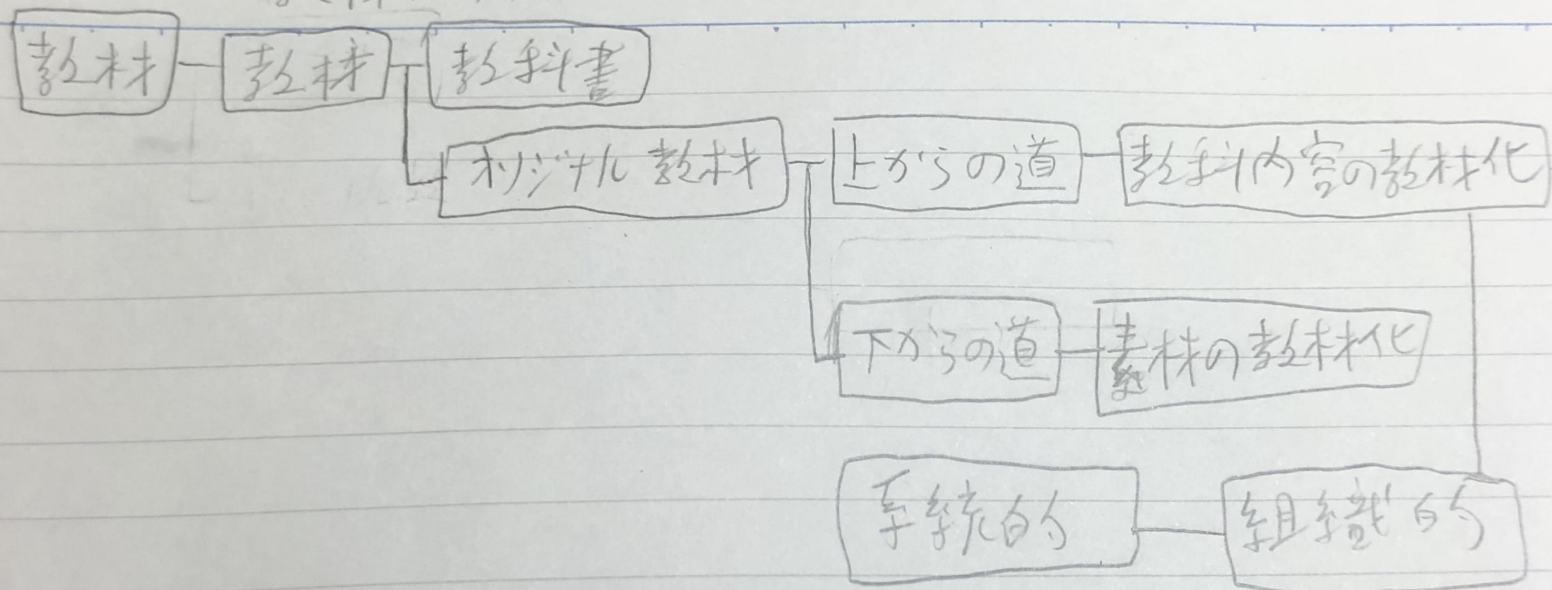
・教材作りデメリット

→教科書のように全てを記載するわけではないので内容がしっかりしていない可能性がある。

(4) 出典(文献名、url 等)

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~yamadama/papers/paper22.pdf>

テーマ：教材作りの発想



メディアとしての教材

教育方法論 m 第5回

テーマ「メディアとしての教材」

(1) 「新しい時代の教育方法」から

●ただ座学をするのではなくメディア・リテラシーの素材として教科書を使うなど、これまでの学校教育や授業の狭さを打ち破るメディア教育を行うべきではないか。

- 1)教科書の内容をなぞるだけでなく、そこからの発見や知的好奇心をのばしていく。
- 2)メディアを通して見方・考え方やジェンダー的偏見などに対して批判的思考を促す点で自由度が高い。
- 3)メディア教育を突き詰めていくと教科書というメディアも対象化しなければならなくなる
- 4)メディアを使いこなして自由になると主張する立場と、メディアを制限して秩序を守ると主張する立場

(2) 視聴覚メディア教材を用いた教育活動の展望

●教育活動において伝統的に利用されている視聴覚メディア教材（ビデオ、DVD など）に注目し、視聴覚授業における効果的な教材の活用方法について提案する。

- 1)学習者の印象に残る現実的な場面を提示することが可能であり、教材の管理や運営が容易である
- 2)集中が続かず、教材の目的を把握できず、さらに教材の不明点を確認することもできないデメリットが発生する可能性
- 3)授業で活用する際には運営上の工夫が求められている。
- 4)あくまでも視聴覚メディア教材は学習者の理解を促す支援的なツールであり、単体では効果的な教材とはなりにくい。

(3) その他のネット資料から長所・短所

●不易と流行についてしっかりと見定め、また良かれと思って行われたことに関しても予期せぬ出来事も生じるため、教育活動においては確かに十分な検討が必要

- 1) 生徒が主体的に学ぶ道具や環境として実際に教育メディアが活用されている率はいまだ低い
- 2)「関係を構築する道具・環境としてのメディア」の意味を見つめる
- 3) 先人の取り組みを見ても、人が学び何かを切り開いていくときには何らかメディアが関わってきたこと
- 4) それが本当に有効かをまずは一歩踏み出し、そのダイナミックな取り組みの中で、「教育学の中でのメディアの位置」を考え、つくり出していくことが大切

(4) 自分の意見

●メディア教育はまだ本格的に取り入れられていないため注意点、デメリットが多くあるが、メリットもあるので徐々に取り入れていくべき

- 1)どのようなメディア教育を行うのかを考える
- 2)「やってみる」ことも大切ではないか
- 3)便利なメディアが増えているので活用しないと損ではないか
- 4)扱いには十分気をつけることが大切

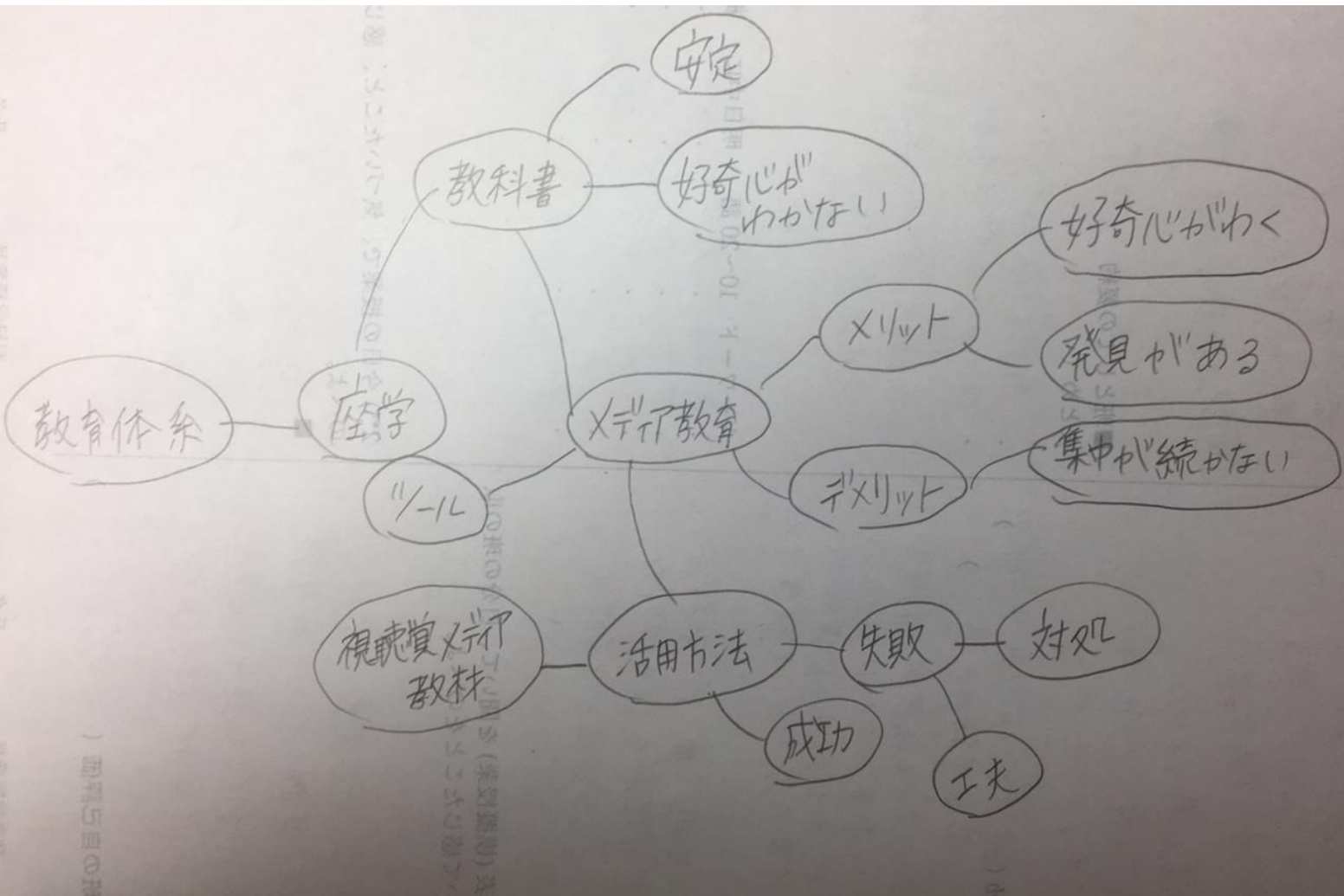
(5) 出典(文献名、url 等)

(1) 視聴覚メディア教材を用いた教育活動の展望

https://barrel.repo.nii.ac.jp/index.php?action=pages_view_main&active_action=repository_action_common_download&item_id=639&item_no=1&attribute_id=19&file_no=1&page_id=13&block_id=135

(2) 教育メディアの課題と新たな活用法の分析

https://www.nhk.or.jp/bunken/book/media/pdf/2015_21.pdf



教材概念の拡張・電子黒板

教育方法論 m 第 5 回テーマ「教材概念の拡張・電子黒板(8 章 3 節)」

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点● 知識伝達型の授業から協働的・対話的な授業にするため、必要な教材の概念の拡張。

ポイント

1)教育の材料・素材として教材概念から学習材概念への転換。

2)子どもたちの発言・文章（＝子どもたちの思考を促すもの）すべてが学習材。

ただし、一般的・常識的なレベルの意見、または、ほぼ全会一致な意見は学習材でない。

3) 2)から子どもたちの話し合いや討論が展開される。（一斉授業もグループ学習も含む）

4)このような学習形態を進めるうえで電子黒板の活用が進んでいる。

(2) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●教材概念と学習概念との関係性

ポイント

1)「教材・学習材論」という言葉があり、教師から、または、子どもたちから教材を扱うことで、学習内容にばらつきが生まれる。（＝学習材に限界がある。）

2)学習材の概念は重要であるが、教材性をどのように保証するかが問われる。

3)教材概念から学習概念に移行したとしても教育実践学としても基本的な要件は失ってはいけない。

4)この教育の変化には教師の意識変革も必要である。

(3) 自分の意見

全体の要点●

ポイント

1)教師から子どもへ向けての授業でなく、子ども同士で作る授業は今までにない形で新鮮に感じた。

2)基本的に授業で発言する機会がなく、育てるべき人間像を育成できていないため良いと思った。

3)だが、急に学習観を変えることは難しいのでどのように、どの程度変えていくのかは、重要であると思う。

4)これは教わる側（＝子どもたち）だけの問題だけでなく、教える側（＝教師）の問題でもある。

(4) 出典(文献名、url 等)

(1). 新しい時代の教育方法 p 212～

(2). 教材・学習材論から 21 世紀の国語教育実践学を考える[有沢俊太郎]

(3)

知識伝達型の授業

協働的・対話的な授業

教材概念

学習概念

知識の習得

資質・能力の向上

教科書の内容

発言
文章

話し合い
討論

電子黒板

一斉授業
グループ学習

ICT活用例

ICT 活用例

1 班

1. 単 元

国語「書写」

2. テーマ

用紙に合った文字の配列

3. ICT 活用のねらい

- ・PC の画面上で操作することによって、字形にこだわり過ぎることがなくなる。
- ・文字や背景の色が簡単に変わることができる。
- ・図工の学習 にもつながる

4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面 (ペアワークでの議論や発表の際に活用)	ICT 活用の手順 ○タブレット PC を使って試し書きをペアで見せ合い、「どのようなことに注意すれば読みやすくなるだろうか」という課題を持つ。 ・ ○タブレット PC を操作しながら、どのように書くと読みやすくなるかペアで考える。 ・ ○明らかになったポイントを意識してまとめ書きをする ・ イメージ図など 	○アプリで作成した画面をスクリーンに拡大表示して、操作を演示しながら、課題を確認する ○オブジェクトの操作が、読みやすく書くためのどのポイントに注目しているのかを意識させる。 ○・試し書きとまとめ書きを並べて表示して評価する

備考

準備物 タブレット PC・ワープロアプリ・プロジェクタ

授業形態と工夫 最初はペアで行い、最後に全体で議論することによって他者の考えから自分の考えたポイントを比較し、よりよい作品をつくり上げることが必要である。

5. 出典・参考等

- ・「未来の学びにつながる ICT を活用した授業づくり」

https://www.kagawa-edu.jp/educ/htdocs/?action=common_download_main&upload_id=8116

教法m 第5回 概念・確認 (1班 B19030 坂元 柊斗)

「ICTの活用例」

学習内容を把握する → 課題を持つ → タブレットPCを操作しポイントを整理



ポイントの整理前
と後を比べ進歩
を実感できる
ようにする

明らかになった
ポイントを意識
してまとめる

オブジェクトの操作が
どのポイントなのか
を意識させる

確認問題04

確認問題 04

(1) 教育目標の特質（種類）として3つの区分を挙げよ。

到達目標, 方向目標, 体験目標

(2) 次の空欄を埋めよ。

ラテン語などの（古典）やユークリッド幾何などの（数学）を学習することを通じて、記憶や推理、想像といった一般的な（形式的）能力を高めようとする立場を（形式陶冶）説という。これに対し、継承すべき文化の中から教材を選択し、それぞれの領域ごとに知識や（技能）を獲得させようとする立場を（実質陶冶）説という。領域内の豊かな知識が形成されることをベースにして一般的な（推理）能力が育つと考えられており、（他者）との協同過程を組み込んだ（探究）学習を進めることを通じて、その領域の（根源）的な理解を深めさせることを重視するのが最近の特徴である。

(3) 向山が規定した「教育技術」について簡潔に述べよ。

できるだけ少ない手間で、教えられる側に知識・技能などをねらいに沿って身につけるようにする習練によって身につけた教える側の行為

(4) 「授業を構成する要素」「現代化のパラダイム」「ブルームの分類体系（タキソノミー）」のうち1つについて簡潔に説明せよ。

「授業を構成する要素」

第一に具体的な目標の設定、

第二に題材やテーマ、教材の設定、

第三に授業のプロセスや構成の設定、

第四に教育目標に照らした評価の設定

以上の四つの要素から構成されている。

？
**) 確認問題 02 を自己評価し、

気づいたこと、感じたことをのべよ

■ 5段階自己評価（ ）

■ 先人達の考えを積み重ねた結果が今の教育だと思えると歴史を感じて感慨深かった。

